しもごう

下郷町 議会だより

令和5年8月

第104号

■目次

■令和５年５月第１回会議・６月会議

提出議案 …… 2

主な質疑 …… 3～4

■一般質問 …… 5～ 9

■議会トピックス …… 10～13

■町民の声 …… 14～15

■議会だよりギャラリー …… 16

世代間交流行事

（パークゴルフ大会 6.18）

令和５年度 ５月第１回会議

○通年議会が開始
○低所得の子育て世帯への支援予算を議決

令和5年5月18日、通年議会最初となる5月第1回会議が招集されました。今後は、「臨時会」とせず「○月第○回会議」となります。

本会議では、低所得の子育て世帯への支援予算や、専決処分の承認3件を審議し全て可決しました。審議内容は次のとおりです。

子育て世帯生活支援特別給付金

食費等の物価高騰の影響を特に受ける低所得の子育て世帯に対して、特別給付金を支給する事業。財源は、全額国費で、対象児童一人当たり5万円を支給する。

議員 対象児童一人につき、5万円なら、2人の場合10万円という考え方でよいか。

課長 子育て世帯への支援であり、3人いるときは15万円となる。

税条例の改正

地方税法等の改正にともない、下郷町税条例の一部を改正する内容。

議員 この条例改正により税収は上がるのか下がるのか。

課長 今回の改正で町民の方への大きな変更はない。

マンション等についての改正は下郷町では該当がない。軽自動車税の軽減については、今の措置が継続となる内容である。

予　算（3ページ）

- 令和５年度下郷町一般会計補正予算
- 令和５年度下郷町国民健康保険特別会計補正予算
- 令和５年度下郷町簡易水道事業特別会計補正予算

条例改正（3ページ）

- 下郷町税条例等の一部を改正する条例の設定

報　告（4ページ）

- 福島県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少及び福島県市町村総合事務組合規約の一部変更
- 令和４年度下郷町一般会計の繰越明許費
- 令和４年度下郷町一般会計の事故繰越し

令和５年度 ６月会議

○講師の加配予算について

※今後は、「定例会」とせず「○月会議」となります。

人事案件（4ページ）

- 教育委員会委員の任命

議　決

- 南会津地方環境衛生組合規約の変更
- 下郷町過疎地域持続的発展計画の変更

議員提出議案（4ページ）

- 国の「被災児童生徒就学支援等等事業」の継続と、被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書の提出

主な議案審議

令和5年6月12日から従来の定例会となる6月会議が開かれました。

本会議では、報告が3件、教育委員会委員の人事や、補正予算を含めた町長提出議案7件、議員提出議案1件を審議し全て可決しました。審議内容は次のとおりです。

税条例の改正

法律等の改正にともない条例の改正を行う内容。主な内容は、森林環境税の徴収に関する改正と法律等の改正にともなう文言等の整理。

議員 説明を受けましたが、もう少し分かりやすくできませんか。

課長 今回の改正で町民の方に大きく関わるものは、森林環境税、年額1000円が令和6年度から個人住民税に合算して課税される。また、メーカーから示される、軽自動車の環境性能による減税の改正がある。

議員 環境性能による減税をわかりやすく教えてほしい。

課長 環境性能割は、自動車取得時にかかる税で、燃費が良いほど減税率が上がる。

議員 年金受給者の森林環境税は、年金から差し引かれる考えでよいか。

課長 年金の自動天引きの中に、加算されてくる。

一般会計補正予算

令和5年度一般会計補正予算は、3千万5000円増額の47億8928万4000円で可決した。主な内容として、過疎計画の変更により、環境衛生組合の施設整備事業のために過疎債を借りることができるようになり収入が増えている。増えた収入等は歳出の予備費で調整されている。相続財産管理人選任申立予納金は、大松川地区の農地整備に関連しており、所有者不明の土地で公共事業にかかる場合、その土地のみの地方裁判所に財産管理人の選任を申し立てることができる制度があり、それを活用するため補正予算に計上されている。議案に対する質疑は次のとおり。

議員 会計年度任用職員報酬を減額しているが教員の加配をしなくなったのか。

課長 複式学級解消のため加配の講師を予定していたが、県や町で探したが適切な人材を見つけることができなかった。当初3名を予定していたが、1名となり、7時間勤務を予定していたが4時間のみの勤務となったことにより2.5人分の予算を減額した。

議員 3名の加配講師を予定していて1名で問題ないのか。勤務も4時間で問題ないのか。不足であれば補填する考えはあるのか。

課長 不足はしている。しかし教育事務所でも探していただいたが教師不足な現状となっている。講師の方が見つかれば補填したいと考えているがそれがかなわない現状である。

歳　入

過疎対策債	2,940万円
森林環境交付金基金繰入金	60万5,000円

歳　出

戸籍システム改修委託料	286万円
相続財産管理人選任申立予納金	50万円
予備費	3,976万8,000円

「加配制度」

加配とは、基準の教員配置定数とは別に、追加で教員を配置できる制度です。主に専門的な指導を行う為や、サポートが必要な児童等のための特別支援教育などを行うために、町予算で教員を配置する内容です。

主な議案審議

令和４年度下郷町一般会計の事故繰越し

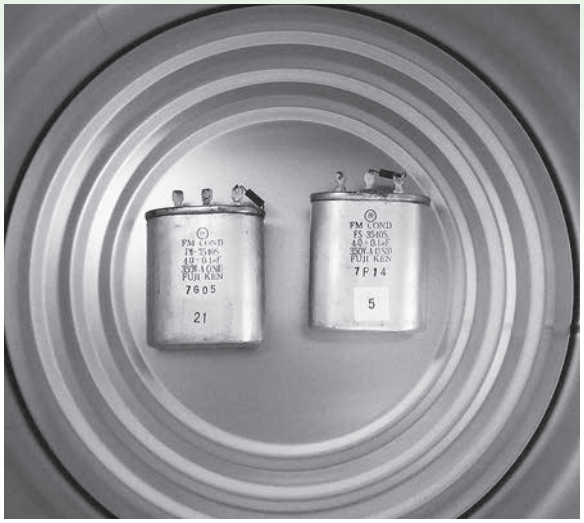
令和４年度の事業で行っていたＰＣＢ廃棄物処理事業で、処理場の処理件数が多数となったことにより、年度内に完了できず６万１６００円を繰り越す内容です。

議員 高濃度のＰＣＢ現物はどこにあって、管理は誰がしているのか。

次長 下郷中学校に専用のペール管に入れて保存していた。さらに廃棄物の運搬関係は、国の指定業者に運んでいただいた。処理については、４月21日に終了した報告を受けている。

議員 ＰＣＢの処理は、このほかにあるのか。これですべて終了した考えでよいのか。今後どういう方法で処分されるのか。

次長 高濃度のＰＣＢは処分が終わっている。ただ、低濃度のＰＣＢ廃棄物がある。現在のところコンデンサーは29個、蛍光灯の安定器10個が専用のペール管で下郷中学校に保管している。期限は、令和９年までとなっているので、予算を確保しながら処分していきたい。



高濃度ＰＣＢを含むコンデンサー

「予算の繰越」

仕事が年度内にやむを得ず終わらない場合、翌年度にその予算を繰り越すことを予算の繰越といいます。繰越には、予算で定めて繰り越す「繰越明許費」と、予想できず避けることができない事故（災害など）で年度内の支出ができない場合の「事故繰越し」等があり、繰越後は議会に報告が必要となります。

教育委員会委員の任命

再任

白石（しらいし） 光史（こうし） 氏（白岩）の再任に同意

同氏は平成19年６月24日から４期16年にわたり教育委員を務められた。今回で５期目となります。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

請願・陳情

◆「国の『被災児童生徒就学支援等事業』の継続と、被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書」の提出を求める陳情

▽陳情者

下郷町大字沢田字前田乙４３５番地

星　新栄　他１名

▽審査結果

採択

▽意見書提出の議決

復興大臣、文部科学大臣などへの意見書提出を議決した。

令和５年度７月第１回会議

○新たな監査委員を選任

監査委員、渡部正晴（わたなべまさはる）氏が７月９日で退職することにより、新たな監査委員の選任についての議案が議会に提案されました。内容は次のとおりです。

監査委員の選任について

新任

五十嵐（いがらし） 浩（ひろし） 氏（小出）の選任に同意

同氏は長年にわたり江川郵便局長を務められました。今年から４年間の任期となります。

一般質問

4議員が 町政を問う

６月会議では、４人の議員が７件の一般質問を６月１３日に行い、活発な議論を展開しました。６ページより、質問した順に代表する質問の質疑応答を要約してお知らせします。

星　　輝夫（６ページ）
- 一般質問及び定例会後について
- 地域計画策定に伴う座談会について

玉川　邦夫（７ページ）
- 増えつつある在宅介護の課題について

星　　和志（８ページ）
- 行政サービス・デジタル化に向けて
- 労働者不足と空き家のマッチング

星　　能哲（９ページ）
- 下郷町農業法人について
- 各集落の活性化について

“一般質問”は、議員が町の行政全般について、事務の執行状況や将来の方針等を聞き、町長などに所信や疑問をただすことで、報告や説明を求めることです。

星 輝夫 議員
teruo hoshi

質問 今後の一般質問をどう考えるのか

答弁 方法について検討が必要ではないか

問 限られた時間の中で町民の声を代弁し、再質問などにより議論を活発化、より良い方向へ調整していく、そういう一般質問の進め方が最善と考える。今後の一般質問を実りあるものにしたいと思うがいかがか。

答 今回の質問内容については、議場内での議事運営に関することであり、議長の権限に属するものと考える。また、下郷町議会会議規則では、一般質問は町の一般事務について行うと規定されており、答弁に関しても議長の議事整理の下、限られた時間の中で議員や町民の方々へ丁寧で、詳細な説明を常に念頭に置き行っている。なお、私は一括質問、一括答弁の後、一問一答方式へ移行する現在の方法より、1問目から一問一答で行う方式が町民の皆様に対しても、より分かりやすく開かれた議会となり、議論が活発化され、その効果が期待できるのではないかと考え、議会に対してご提案させていただきたい。

問 答弁の中で、深みのある一般質問したいと言われたが、その深みというのは具体的お聞かせ願いたい。

答 一問一答方式では、1問の質問があれば1問答えていく、また2問の質問が出たら2問の質問で答えていくという進め方のほうが議員のおっしゃる通りになるのではないか。私はそれを望んでいた。ご理解ください。

質問 地区によっては計画策定できないのでは

答弁 農業だけでなく生活への影響も

問 制度説明の集落座談会、が開催されているが、本町の全地区が対象なのか。既に限界集落となり、5年、10年後の地域計画案の作成ができない地域もあると思うがどう考えているのか。

答 対象区域は、現時点で刈林地区、野際地区新開地区の3地区を除く全地区が対象。対象地区では、地域計画の策定を希望しない地区もあったが、法改正に伴う制度改正で、今後の農林水産省関連の補助を受ける場合、地域計画の策定が条件とされたことで、各地区の現状から3地区以外は全ての地区で策定していく必要があると考えている。高齢化等により、農地の維持も困難で、計画策定ができない地区も多数あることは承知しているが、用水路などの農業施設改修等が必要な地区は、今後国や県の補助金なしでは財政的に困難になると想定される。さらに、この用水路は生活用水路と重複している地区も多く、今後の改修や改善等が生じた場合、農林水産省関連事業で行う必要がでることからも、地区計画の策定は必須となる。

問 水田を作っていない地区で、計画書を作ることは無理だと思うがどうか。

答 用水路は、防火用水など生活用水路でもある。そのため、施設を造る場合に、町単独事業で造るとなると財政的に負担が大きくなる。そういうものを国、県の補助でやっていくため、地域計画を作る必要がある。

在宅介護の大きなメリットとは

社会情勢の変化にマッチした介護支援

質問　答弁

高齢化・核家族化の進行に伴い、高齢者のみの独居世帯が増加し、老老介護・認認介護という状況は当たり前になってきた。町の総合計画でも「在宅介護を支援するための家族介護の負担軽減に努める」と支援の重点化を掲げている。そこで、高齢者が住みやすいまちづくりの方策を尋ねる。

玉川 邦夫 議員
kunio tamakawa

問 近年、介護施設が充実してきている中で「自宅での介護には本人にとってもこんなメリットがあるんだよ」という視点で、在宅介護を捉えることが大事であると思われるが、町長の考えはどうか。

答 介護制度がスタートして27年。２０００年には若者たちからも介護を支えていただいている。要介護者が増える中で介護保険によって様々な介護支援が保障されるこの制度は大きなメリットである。そのためにも第９期介護保険事業計画にあたっては、高齢者が安心して生活が送れるよう、社会情勢の変化に応じ、ニーズにマッチした計画を策定していく。

入浴介護は免疫力向上やストレス解消に

問 食事・排泄・入浴は日常生活で最重要な支援。その中で、入浴はストレス解消・皮膚炎や感染症予防・睡眠促進・免疫力の向上等、非常に効果は大きい。

実際に「本人に入浴介護を進めるが、毎日体を拭いてもらっているから結構です」というケースもある。こうした実例は把握されているのか。様々な家庭状況の中で「この家族にとってのより良い介護の在り方は何か」が求められている。関係機関と情報交換はされているのか。

答 多くの方がそれぞれに課題を抱えているので、個別ケースでの詳細は控えさせてもらう。なお、難しい対応事例や虐待問題で第三者介入が必要な対応は、実例を持ち寄って随時ケース会議を開き、個に応じた対応の在り方を検討している。

「通いの場」の持続的支援に予算化を

問 行政独自の介護サポートとして、在宅介護充実のために、

○家族介護慰労金制度の廃止
○紙おむつ助成金額の値上げ
○福祉用具購入費の充実

等の見直しをしている自治体が出ているが、本町での具体的施策はどうか。また、21年に厚生労働省は、生きがい・孤立防止・認知予防のため「通いの場の充実」を掲げた。まさに各地区の「サロン」活動こそが大切な場である。ぜひこうした活動へ行政支援をお願いしたい。

答 「自治体独自のサポート」については、今年度の第９期介護保険事業計画で、社会情勢の変化に応じ、そのニーズにマッチした計画に努めていく。「通いの場」の支援については、地区の要望を受けて介護予防教室を開き、一定の効果を得ている。今後は、持続的な取り組みとなるよう、自立に向けた支援の検討も考えている。

自宅入浴が困難、デイサービス活用が困難な方へ

星 和志 議員
kazushi hoshi

質問 行政サービスのデジタル化について

答弁 標準的にデジタル化していく

問 行政手続きのオンライン化により、働いている人、役場から遠方に住まわれている方の時間や手間を節約でき、職員の負担も軽減される。利点が大きい分、浸透させるには課題も出てくる。そのために早めの対応が重要であり、国も補助や支援をしている中で、本町行政のデジタル化をどのように計画していくか。

答 国のガバメントクラウドの地方公共団体情報システムの標準化に関する法律に基づき、令和8年度から稼働を予定の期間とし、システム標準化の移行業務に取り組んでいる。

問 デジタル化について移行中ということだが、こちらは、令和8年度ではないと始められないのか。それとも前倒しで進められないのか。

答 一番懸念しているのは、先行してやることで標準にするために障害が出てくる。遅くも、早くもしないという考えある。

問 昭和村では、令和3年から若手職員でDXチームを作っている。役場内も電子決済でやり取りしているようだ。先進的な行政を下郷町も目指していけば、今後いろいろな問題に対応できるのではないか。

答 標準化に合ってるのかどうかということを考えなければいけない。早めにしても、遅めにしても駄目だと思う。その辺はやはり効率の良い予算の消化をしなければならない。

質問 労働者不足と空き家のマッチング

答弁 十分な施策の執行はできている

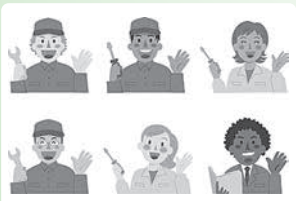
問 多くの事業所で、人手不足が大きな課題となっている。国も外国人技能実習生という形で、3年から5年の滞在期間を設けている。

本町でも、技能実習生の制度を利用する事業所も出てきてる。本町の産業を支えてくれる外国人労働者の住まいと、増加する空き家のマッチングは、事業所・労働者・行政ともにプラスと考える。今後の本町の空き家・事業所の問題を、どのようにお考えか。

答 技能実習は、労働力の需給調整の手段として行われてはならない。と規定されており、人手不足解消の制度ではないと理解している。しかし、人手不足や空き家の増加は、大きな課題となっている。今後の課題に対し外国人、日本人を問わず、町内の事業者等で雇用が促進され、移住定住する方を増やすことが重要であると考える。

問 外国人労働者の受け入れは、監理団体が必要で、その団体が教育を1、2ケ月する。この受け入れ先を我が町に誘致すれば、労働者が豊富となり企業誘致ができるなど色々な可能性が出てくる。先手を打った施策を考えていただきたい。

答 労働力不足については、現時点の予算で十分な施策の執行はできている。民間で問題が出てきた場合には、国が考えなければいけない事だと思う。



質問 下郷町農業法人について

答弁 様々な状況を勘案し設立を検討していきたい

問 「限界集落」の用語は、広く知られるようになり、集落人口の半数以上が65歳以上で占めると限界集落と言われ、何の手立てもしなければ最後は消滅集落に至ると言われている。令和4年4月1日現在、下郷町は38集落のうち17集落が限界集落化し、由々しき事態であり早期に取り組むべき喫緊の課題である。更に、集落の高齢化と共に集落周辺の農地の耕作放棄地等による環境悪化により限界集落化が一段と進むことが懸念される。また、下郷町は本来農林業の町であり、少子高齢化等の影響を受けて年々増大する耕作放棄地は約一千町歩に迫ろうとしており、今後の町の実情は由々しき事態になる事は必定である。従って、このような観点から、すでに本町農業法人検討委員会では、下郷町農業法人設立基本構想の中で農業法人設立の初年度として、令和5年度に農業法人の事業開始を目指すとしているが、次の2点について質問する。

星 能哲 議員
yoshichika hoshi

①農業法人の事業開始は、いつ始めるのか。
②今後の事業開始のスケジュールについて

答 令和3年4月に「下郷町農業法人設立基本構想」について検討委員会より報告を受け、令和5年度に設立・事業開始する想定であったが、新型コロナウイルス感染症の流行等により既存の農業者等への優先支援の判断のもと各種支援策を展開してきた。「今後のスケジュール」については、依然として農業を取り巻く環境は厳しい状況が続く中、法人設立が最小の経費で最大の効果が発揮できるよう状況を見極めながら検討していく。

年々増大する耕作放棄地

質問 各集落の活性化について

答弁 高齢者に寄り添った施策を目指す

問 令和4年10月1日現在の下郷町の国勢調査人口は、5，264人に確定し、人口減少と高齢化で限界集落が増え、下郷町の盛衰は各集落の活性化にかかっていると言っても過言ではない。現在の町の諸施策をみると、限界集落化する前の比較的元気な集落を対象とした施策になっているのではないかと思慮される。従って、その対策として集落の高齢化に応じた諸施策と有効な交付金の活用により集落の活性化を図ることはもとより事務手続きの簡素化や利便性の向上を図ることも求められているがどうか。

答 高齢者タクシーの助成や冬期間の除雪支援事業など高齢者の支援事業を展開している。また、農業振興においては、各種交付金を行政区に交付し、集落の活力と賑わいを創出してきたと考えている。令和3年度からは、町単独事業「下郷町未来創生ふるさとまちづくり支援事業」を実施し、今後、多くの行政区で活用されていく事業と期待している。各地区の特性を活かした高齢者に寄り添った施策を検討していく。また、行政の事務手続きの簡素化については、高齢者はもとより町民に寄り添った行政サービスを目指していく。

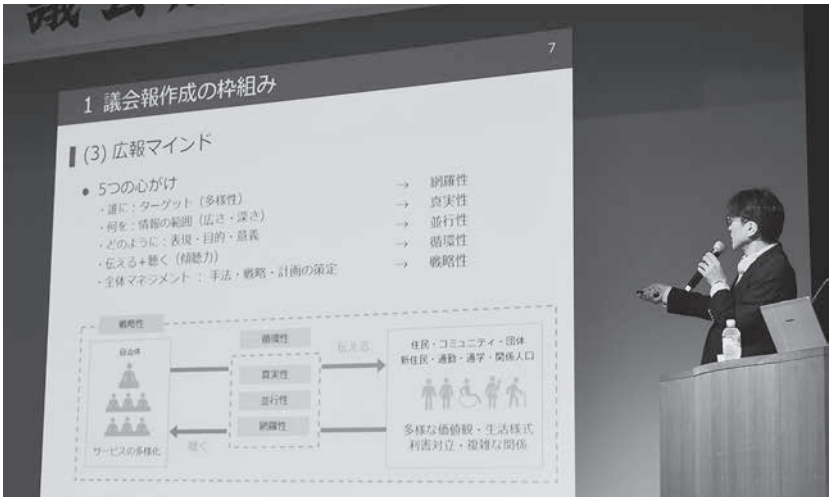
6月27日 福島県町村議会 議会広報研修会

伝わる議会報の企画と編集

令和５年６月２７日、町村議会広報研修会が開催されました。下郷町議会広報常任委員会からは５名が参加し研修を受けました。一般社団法人自治体広報広聴研究所代表理事・広報アドバイザー金井茂樹（かないしげき）氏を講師に招き、伝わる議会報の企画と編集について講話がありました。

５つの心がけ

① 誰に
② 何を
③ どのように
④ 伝える＋聴く
⑤ 全体マネジメント



講演いただいた金井茂樹氏

「伝える」＝「伝わる」、「書いた」＝「読んでもらえた」、「読んでもらえた＝理解してもらえた」と勘違いしているのではないか指摘されました。

今までも心がけてきたことでしたが、何が足りないのか考えてみますとやはり講師に指摘された部分なのではないかということです。これからも伝わる議会報＝理解してもらえる議会報づくりを目指します。

また、６町村の議会報クリニックも行われました。他の町村の広報誌の良い部分、修正が必要な部分の診断・解説が行われました。他町村の議会報の良い点は参考にしながら、今後の議会報づくりに活かしていきたいと思います。

7月6日 南会津町村議会議員大会

会津縦貫南道路の早期整備と公共交通機関（鉄道・バス）の維持を訴える

７月６日(木)に南会津地方の町村議会議員が一堂に会し、議員大会が行われました。議員大会では、各町村の課題などに対する要望が提案され、全てが可決されました。

可決された要望は郡の議長会より県、国等へ要望されます。

南会津町村議会議長会 小玉智和（こだまとしかず）会長

○地域高規格道路「会津縦貫南道路」の整備促進について

1．国直轄権限代行で事業中の湯野上バイパスについて、４号トンネルの早期着工と２号トンネル及び橋梁の早期完成を図る。

2．田代インターチェンジ（仮称）と下郷インターチェンジ（仮称）の間に、地域住民の利活用及び観光地施設等への誘客を図るため、新たにインターチェンジの設置を図る。

3．下郷田島バイパスについては、早期事業促進を図る。

提案理由を説明する 星和志（ほしかずし）議員

○第三セクター会津鉄道・野岩鉄道並びに生活バス路線への支援措置について

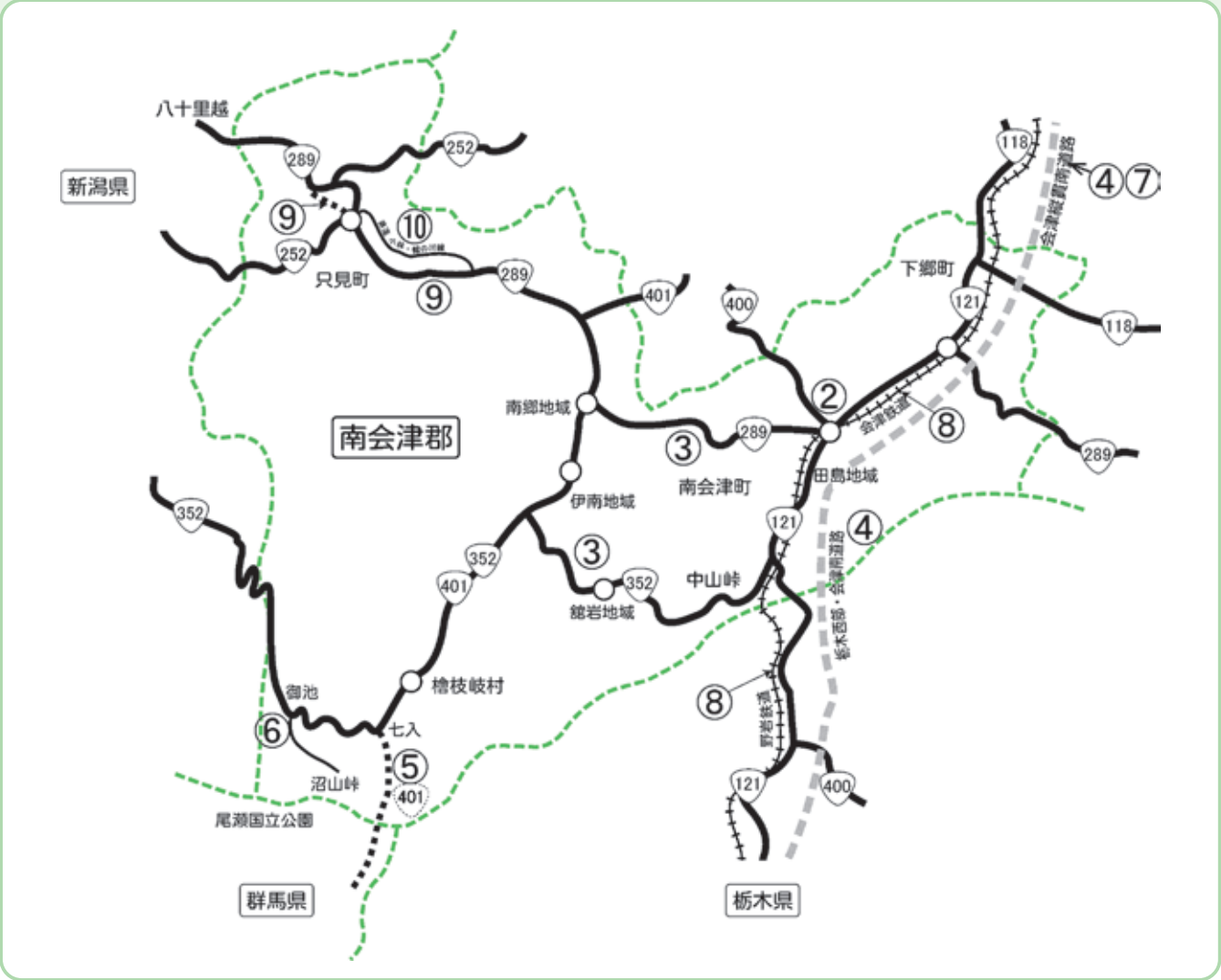
1．第三セクター鉄道の厳しい経営状況に鑑み、県においては、現在の補助制度を堅持すること。また国においては、経営安定のための新たな補助制度を創設するとともに、第三セクター鉄道に対し、地方公共団体が助成や出資を行った場合は、地方交付税措置の優遇策を講じる。

2．第三セクター鉄道の大規模災害等にかかる国の財政支援措置を拡充する。

3．鉄道輸送の安全確保や、災害の未然防止のため、地域公共交通確保維持改善事業費補助金の補助率の引き上げを図る。

4．生活バス路線について、地方自治体が地域住民の生活に必要な公共交通手段を維持できるよう、国において十分な財源措置を講じる。

要望箇所位置図



No.	要　望　内　容	提案町村名
①	過疎地域が持続的に発展するための支援について	南会津町
②	中山間地域における医療の充実と県立南会津病院の常勤医師確保について	南会津町
③	一般国道２８９号（駒止峠）無散水融雪施設設置と一般国道３５２号（穴原～耻風間）の改良促進について	南会津町
④	「栃木西部・会津南道路」と「会津縦貫南道路」の一体的な整備促進について	南会津町
⑤	一般国道４０１号の改良整備事業の促進について	桧枝岐村
⑥	裏燧林道登山道整備の充実について	桧枝岐村
⑦	地域高規格道路「会津縦貫南道路」の整備促進について	下 郷 町
⑧	第三セクター会津鉄道・野岩鉄道並びに生活バス路線への支援措置について	下 郷 町
⑨	一般国道２８９号「八十里越」区間の開通に向けた周辺道路の整備促進について	只 見 町
⑩	県道「小林・舘の川線」未改良区間の整備と通年通行確保について	只 見 町

6月5日
福島県町村議会
議長会総会

福島県町村議会議長会副会長に小玉 智和 議長が選任

６月５日に福島県町村議会議長会総会が開催されました。総会では会長等の役員改選が行われ、下郷町の小玉智和議長が副会長に選任されました。

また、総会では自治功労者等の表彰が行われ議会議員として２０年以上在職された小玉智和議長特別功労表彰、１１年以上在職された星輝夫副議長、湯田健二議員に自治功労表彰の栄に浴されました。

左から副会長の大熊町議長、小玉智和議長、会長の鏡石町議長

６月１２日、６月会議の冒頭に福島県町村議会議長会総会で表彰された方々への表彰状の伝達が行われました。

伝達後小玉 智和議長からは、町民の皆様、先輩・同僚議員、町長及び職員への感謝が述べられ、今後も町民の幸福、町の振興発展のため活動していく旨挨拶がありました。

星 輝夫副議長からは、先輩・同僚議員、職員への感謝が述べられ、今後のご指導、ご協力お願いする旨挨拶がありました。

湯田 健二議員からは、関係各位の指導や励ましへのお礼が述べられ、今後も町政発展のためより一層の精進していく旨挨拶がありました。

左から湯田 健二議員、小玉 智和議長、星 輝夫副議長

町民の皆さんから
いろいろ聞きました

町民の声

「ぜひ私たちの声を聞いてください」と色々な意見を寄せてくださいました。

私たち議員はその声を、議案審議や一般質問を通して町に提案していきたいと思います。

今後も皆様の声を議会に届けてください。

４０代男性（落合）

❶町議会等に対する要望

- 質問をしていない議員が約２/３程いるようなので議員定数を減らすべきではないか。
- 複式学級や人数が少ないことにより、学校行事や勉強に影響が出てくるので統廃合を早急に進めてほしい。

室井 常邦さん（張平）

❶今の町（議会）にとっての課題

小学校の統合問題です。専門家によると、このままでは学力低下は明かだといいます。統合することによって複式の解消、教職員組織の充実、さらには地域のまとまりにつながります。多くの仲間と活動を共にして、たくましく成長してもらうことが、私たち大人の責務と考えます。

❷議会だよりにぜひ載せて欲しい特集内容

一人一人の議員の様子が見えるような紹介コーナーがほしいですね。議員になられてのまちづくり構想を載せていくことによって、議員の人柄が良く見え、一層親近感も深まることと思います。

❸議員のなり手不足を解消

議員定数を削減し、その分報酬をアップして、女性や若手が町政に目を向けていただけるよう条件整備を進めてほしいと思います。そして、何よりも私たち有権者が、縁故関係にとらわれることなく、町のために積極的に行動を起こしてくれる議員を選出してあげることが大事になります。

７０代男性（湯野上）

❶今の課題

地域で林道、用水路（堰）の維持管理をするのは大変である。高齢化して少子化も重なり地域に人夫が少ない。シルバー人材センターを設立し「お助けマン」的なことに取り組む必要があるのではないかと思う。

❷議会だより

一般質問はよく読む。質問・答弁はあるが、その後継続してどうなったのかが無い。時系列的に、１年毎とか最終的にどうなったのか。質問する側、受ける側両方が町民にディスクローズしてはどうか。

❸その他

気楽に議会や役場（公的機関）に行けるように、より開かれたものにするために、今よりさらに挨拶運動を展開してはどうか。町民から役場含む公人、役場含む公人から町民へ声をかけ、両方が少しずつ努力すればよりコミュニケーションが取れると思う。

小山 美来さん（白岩）

❶青少年の主張発表を経験して

「下郷町のゴミ０を目指して」と題しての体験発表では、友達が関心を持って熱心に聞いてくれたので、緊張どころか自信をもって発表することができました。身の回りは想像以上にゴミであふれていることを訴えながら、住民一人一人が何らかの行動を起こしていかなければと強く感じました。

❷下郷町の良い所、課題になるところ

町には素晴らしい観光名所がいくつもあります。また、豊かな自然に囲まれています。さらに人柄の良さはどこにも負けません。こうした宝物にほこりを持って守っていかなければならないと思います。そのために私たちができる町づくりは、様々な形で情報発信していくことだと思います。私はこの町が好きです。将来は、地元で仕事に就きたいと思っているのでぜひ多様な働き場所が増えることを願っています。

４０代女性（姫川）

❶町議会等に対する要望

下郷町は、町の人口をみても、過疎化、少子高齢化が進行しているので非常に町の将来を心配しています。何故と言えば、私は自営業で生計を立てている関係上、その影響を受けていますので、将来が大変心配です。特に、子どもの人数が減り、町の将来に不安を強く感じています。

従って、子どもの将来を考えた場合には、小学校の統合も時代の流れでやむを得ないと思っています。子ども達へのより良い教育環境を整えていくには、町内小学校を統合して、小中一貫校になれば幸せであると思っています。

３０代女性（塩生）

❶町議会等に対する要望

- ２０代・３０代の若い人の意見や、子育て世代の意見が反映した町になってほしいので議会に若い人が参加してほしい。
- 若い人達が集まって町の政策の一部を決める機会があれば若い人たちも政治に興味を持ちそう。そして相乗効果で町も良くなる気がする。
- 優れた町の運営している人材をヘッドハンティングや勉強、マネする等、役場の人たちだけで決めず、外部の優秀な人材も使っていくべき。

下郷町議会だより
発行：福島県南会津郡下郷町議会
編集：議会広報常任委員会
〒969-5345 下郷町大字塩生字大石1000番地
E-mail：gikai_01@town.shimogo.fukushima.jp
TEL：0241－69－1123
FAX：0241－69－1167

議会だよりギャラリー

議会とまちのうごきを写真でレポート

江川小学校全校児童とブンケンさんゴミ拾い

この日は福島中央テレビ「ブンケン歩いてゴミ捨いの旅」のロケがあり、江川小学校全校児童でゴミ捨いをしました。江川小学校の３・４年生は、授業の一環でゴミ問題・３R・SDGs（持続可能な開発目標）について学習しています。

ゴミを減らす学習や環境にやさしい製品作りに取り組んできました。

昨年はヘチマたわし作りに挑戦しました。

音金サロンの皆さんに議会を傍聴していただきました。

音金サロンの皆さんには、議案審議の傍聴をしていただきましたが、「内容が難しかった」、「皆さんしっかりやられていた」などの感想をいただきました。以前から傍聴の計画はあったそうですが、日程の都合で来られない方がいたので、また機会があれば傍聴したいとお話をいただきました。

議会を傍聴しませんか

町議会定例会は３月・６月・９月・１２月に開かれます。
お問い合わせは町議会事務局（６９－１１２３）まで

編集後記

昨今デジタル化やＡＩ等テクノロジーの革新が目まぐるしいです。これらを使えば生活も楽になり新しい事への挑戦もしやすくなり、生活様式も変わるでしょう。いつの時代も便利な道具を使いこなせれば人より優位に立て優遇されます。ですが道具に使われてしまっては本末転倒になってしまい大事なものを見落としそうになりそうです。こんな時代だからこそ直接的な人と人とのふれあいや手仕事等「田舎」に残っているものが輝くと感じています。（星　和志）

議会広報常任委員会
委員長　山名田　久美子
副委員長　玉川　邦夫
委員　小椋　淑孝
委員　星　能哲
委員　星　昌彦
委員　星　和志